

<p><b>外国人住民</b> 1990年 出入国管理及び難民認定法改訂による、日系人の滞日増加。</p>	<p>『教育する』→『支援する』→『共生する』とパラダイムシフトしてきている。</p>
<p>1979 国際人権規約 国籍条項廃止：公務員は日本国籍を要する</p>	<p>2006 総務省 「多文化共生の推進に関する研究会報告書」発表。多文化共生を定義。</p>
<p><b>2001 外国人集住都市会議 浜松市</b> 地域共生社会の形成を宣言</p>	<p>2009 総務省 「地域における多文化共生推進プラン」改訂</p>
<p>教育/社会保障/外国人登録等諸手続きの3点</p>	<p>2016 総務省 「多文化共生事例集作成ワーキンググループ」を設置</p>
<p>1995 阪神淡路大震災 <b>情報弱者</b>の外国人に対しての『やさしい日本語』</p>	<p>文化庁：<b>地域日本語教育コーディネーター研修：生活者としての外国人</b></p>
<p>2020 「外国人材の受け入れ・共生の為の総合的対応策」</p>	<p>日本語教育司令塔として地域において日本語教育を推進していく人材</p>
<p>2020 「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」</p>	<p>2014 グローバルコミュニケーション計画：多言語翻訳技術の向上、社会実装。</p>
<p><input type="checkbox"/> 『やさしい日本語』：弘前大学 佐藤和之</p>	<p>2020 <b>グローバルコミュニケーション計画2025</b>：AIによる15言語、同時通訳が目標</p>
<p>旧日本語検定試験3級＝小学校3年生程度の日本語</p>	<p>『<b>移動する子どもたち</b>』：親の都合で国境を越えた子供たちの<b>学習権</b>の保障</p>
<p><b>簡単な言葉を使う</b></p>	<p>1979 国際人権規約に日本が批准</p>
<p>服用-薬を飲む/無料-お金は掛かりません</p>	<p>1994 児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）批准</p>
<p><b>動詞文を使う</b>。動詞を名詞化した言葉はわかりにくい。</p>	<p>1991 「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」</p>
<p>(×) 揺れがあった。(○) 揺れた</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省『<b>JSLカリキュラム</b>』の作成：小学校編/中学校編</p>
<p><b>一文を短くする</b></p>	<p>日本語指導と並行して教科指導を統合したカリキュラム</p>
<p><b>カタカナ語は使わない</b>：逆に分かりにくい。</p>	<p><b>トピック型</b>：具体物や体験を通して各教科に共通する『学ぶ力』の育成</p>
<p><b>曖昧な表現を使わない</b>。</p>	<p><b>教科志向型</b>：特定の教科の学習活動への参加を通して『学ぶ力』を育成</p>
<p>(×) 行かない事もない(○) 行きます</p>	<p>日本語支援タイプ「日本語支援の考え方とその方法」（中学校編）</p>
<p>(×) 非常に/たぶん/ややなど曖昧表現を避ける</p>	<p>直接支援：①理解支援 ②表現支援 ③記憶支援</p>
<p><b>災害用語はよく使用するためそのまま使用する</b></p>	<p>間接支援：④自立支援 ⑤情意支援</p>
<p><b>マス形への統一などは不自然な文章に成る為不要</b>。</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省『<b>JSL対話型アセスメント DLA</b>』</p>
<p><input type="checkbox"/> 「<b>簡約日本語</b>」発案：<b>野元菊雄</b>-国立国語研究所元所長</p>	<p>教科学習に困難を感じている外国人児童生徒の日本語能力測定方法</p>
<p>日本語が不自然で批判を浴びた。</p>	<p>「対話型」で指導者が生徒と1対1で生徒の状況を把握するツール。</p>
<p><input type="checkbox"/> 「<b>やさしい日本語を用いた公文書の書き換え</b>」提案</p>	<p><input type="checkbox"/> 日本語指導が必要な生徒数 令和3年度 令和4年3月25日発表</p>
<p>：庵 功雄（いおりいさお）</p>	<p>児童生徒数 <b>5万8,353人</b>で7,227人 14.1%増加</p>
<p>言語サービス＝多言語での情報発信とやさしい日本語</p>	<p>都道府県別 <b>愛知県</b>が突出。神奈川 東京 埼玉 静岡 大坂が多い</p>
<p>NHK 「やさしい日本語ニュース」（NEWS WEB EASY）</p>	<p>母語別 <b>1位ポルトガル語 2位 中国語 3位フィリピン語 4位スペイン語</b></p>
<p>HIRAGANA Times Magazine：日本語学習、日本生活情報マガジン</p>	<p>この4言語で8割を占める。その多言語も増えて多様化が進んでいる。</p>
<p>MATCHA：訪日外国人観光客向けWEBマガジン</p>	<p><input type="checkbox"/> 2014年『<b>特別的教育課程</b>』編成実施が可能。日本語能力に応じた指導。</p>
<p>日本：<b>移行型バイリンガル教育/サブマージョン・プログラム</b>：消極的二人語使用</p>	<p><input type="checkbox"/> 取り出し授業と入り込み授業 加配教員 拠点校方式/センター校方式</p>